

令和7年度 赤穂市学校(園)評価 外部報告書

| | |
|------|----------|
| 学校園名 | 赤穂市立原小学校 |
|------|----------|

1 本年度の学校経営方針

コロナ禍における体験活動の機会や地域とのつながりの減少等、子ども達自身や取り巻く環境が大きく変化中、新たな教育活動をつくりあげていくことが必要となっている。また、これからの社会は、グローバル化が一層進展し、ICTの急速な発達に伴い、変化が激しく予測困難な時代を迎える。これからの時代を生きる子ども達は、社会情勢の変化に主体的に対応し、夢や志の実現に向け、未来への道を自ら切り拓いていく力を身につけていくことが必要である。そのような力を育むことを目指し、学校教育目標を「夢や志を抱き、自ら道を切り拓いていく児童の育成」とする。

学校教育目標を達成していくために、次の3点を学校経営の基本方針とする。

- ①児童が夢や志を抱き、目標をもって意欲的に学ぶ学校づくり
- ②教職員全員で児童一人一人の成長に関わり、学校運営の参画に達成感や有用感をもって取り組める学校づくり
- ③コミュニティ・スクールとして、学校、家庭、地域が一体となった、安全で安心な、地域とともにある学校づくり

2 本年度の学校重点目標

| | |
|-------------|-----------------|
| 1 確かな学力の育成 | 6 家庭・地域との連携及び協働 |
| 2 豊かな心の育成 | 7 チーム学校による対応の充実 |
| 3 健やかな体の育成 | |
| 4 キャリア教育の推進 | |
| 5 特別支援教育の推進 | |

総合的な学校園関係者評価

◎ほとんどの児童が、自信をもって発言しており、また、図画などの作品を見ても、先生方が、一人一人を丁寧に、自信をもたせるように、指導している。少人数の最大の良い点だと思う。

◎小規模校の特性を生かし、児童一人一人に目が行き届いた丁寧な教育がなされている。

◎教職員の努力により、学力向上だけでなく、心や体の育成にもしっかりと取り組んでいる。

◎子ども達の夢や志の実現に向けて、校長先生をはじめ先生方が一生懸命に取り組んでいる。それは、一人一人に寄り添うことができる小規模校だからこそだと感じる。私たち地域の者も子ども達の夢や志の実現に向け、お手伝いができればと考える。

◎年間を通して、様々な授業、体験学習等に取り組み、よい教育ができています。

◎多くの地域で、学校の統合や廃校の話を見聞きするが、原小学校が小規模校として、モデル校となるよう学校運営や行事や学習方法を工夫し、「極小規模校の良さ」として、マスコミの取材を受ける等して、アピールしてほしい。

◎原幼稚園をはじめ、有年中学校や、地域との連携を、より密に、地域ぐるみでの子育てや子育ての活動をしているコミュニティ・スクールとしての継続を希望する。地域との連携は、自治会、老人会等に、声を掛けてもらえば、協力する。コミュニティ・スクールとして、原小学校を核とした地域づくりを目指すことが出来ればよい。

◎家庭や地域との連携を更に深め、地域に根ざした魅力ある学校づくりが推進されることを期待したい。

◎少人数教育の成果を発揮してほしい。

◎原小学校は原小学校なりの学校運営を考え、推進するとよい。

◎地域と一体となった活動を今後も継続してほしい。

学校関係者評価

3 自己評価結果(A～D) A: 達成した B: ほぼ達成した C: あまり達成できなかった D: 達成できなかった

◎: 適切である(4) ○: ほぼ適切である(3) △: あまり適切でない(2) ×: 適切でない(1)

| | 観点 (重点目標) | 評価項目(学校・教師の取組) | | 評価資料 | 達成状況 | 改善の方策 | 自己評価は適切か | 改善方策は適切か | 課題と来年度具体的改善方法 |
|---|--------------|-------------------------------|--|-----------------------|------|---|----------|----------|--|
| | | 項目 | 指標 | | | | | | |
| 1 | 確かな学力の育成 | ①一人一人の考えを大切に、学ぶ楽しさを実感できる授業づくり | 項目 児童が相互に学び合う場を数多く設定し、互いの考えや価値観を高め合えるよう授業の工夫をしているか。 指標 友達とともに学ぶ楽しさや価値を感じている。 | アンケート | A | <ul style="list-style-type: none"> ・「対話の力」「主体的に学習に向かう力」の育成を主眼に授業づくりを行う。 ・「書く活動」の充実を図ることで、「思考力」を高める。 ・日頃から自分の考えをわかりやすく言語化する活動を意図的に取り入れていく。 ・「学習のふりかえり」を記述する習慣を図っていく。 ・学力の把握を的確に行い、つまづきの解消に向けた指導を充実させる。 | ◎ 3.8 | ◎ 3.7 | <ul style="list-style-type: none"> ◎本、新聞、インターネット等を利用し、色々な事に興味をもち、自ら情報収集することで、得意分野が出来る。それを人前で話すことが、成功体験につながり、自分に自信がついてくると思う。 ◎子ども達には、色々な事に興味をもち、色々な角度から物事をみて、幅広く思考できるような人になってほしい。 ◎学んだことを児童が自分の言葉で表現できることが大事。「思いを書き出す」、「相手に分かるように話す」ということが肝要 ◎ICTの活用、他校との交流を積極的に行う。 ◎平均的な学力を身につけることに加え、何か一つでも特化した科目(算数等)があってもよい。 ◎デジタル化が進んでいるが、習字やそろばん等アナログで取り組むことも重要である。 ●小規模校として児童一人一人に目が行き届くという利点がある一方で、多様な意見、交流、競争等の機会に限られる。 |
| | | ②学習習慣や知識・技能の定着 | 項目 基礎学力の向上のために継続的な指導を行ったり、読書活動の推進を図ったりしているか。 指標 該当年度の漢字や計算が定着している。進んで本を読もうとする態度が育っている。 | アンケート・児童のノート・テストの結果 | | | | | |
| | | ③言語活動の充実 | 項目 物事の見方や考え方を深め、事象に対する自分の考えや思いを豊かに表現する力が育っているか。 指標 授業の学びを自分の言葉で伝えたり書き表したりすること、日記や作文で自分の思いや考えを表現したりすることができる。 | アンケート・児童のノート・日記・文集・作文 | | | | | |
| 2 | 豊かな心の育成 | ①道徳教育・特別活動の充実 | 項目 児童が主体的に活動に取り組み、他者のために働くことの素晴らしさや充実感を味わうことができるように努めているか。また、自尊心や思いやりの心を育てるように努めているか。 指標 一人一人の児童が充実感・満足感を味わい、居場所のある学級経営ができています。 | アンケート・活動記録 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・教員が道徳の授業作りについて研修を深め、指導力向上を図ることで、児童の「深い学び」を目指す。 ・縦割班活動や集会活動については、5・6年生がリーダーとなり、自らが計画・実行する中で自己有用感を育む。 ・児童主体の生活目標委員会でその月を振り返り、次の月の生活目標を設定することで、児童が楽しく、主体的に学校生活を送ることができるようにする。 ・特別な配慮を要する児童について、校内で情報を共有したり関係機関と連携したりして、個に応じた適切な対応ができるようにする。 | ◎ 3.8 | ◎ 3.8 | <ul style="list-style-type: none"> ◎子ども達が、学校生活を送るために、自分たちで話し合いながら、目標を設定したり、達成のための取り組んだりすることは、「人と協働する」という習慣となり、社会に出たときに役立つと思う。 ◎誰に対しても思いやりや優しさのある対応行動がとれるよう、先生方にも同じ対応をお願いしたい。 ◎児童の知的好奇心をくすぐることができれば心は育つ。共同作業、合同行事の楽しさを味わって、社会性も身につけてほしい。 ◎地域との交流を積極的に進める必要がある。 ◎自然と文化財が身近にある環境は貴重。地域に出かけ、豊かな心の育成に努めてほしい。 ◎児童は自分の居場所があることで、安心して学び、遊ぶことができる。自分が認められることで、励むことも生まれると思う。 ●児童数が少ないため、人間関係が固定化しやすい。多様な価値観に触れる機会を確保する。 |
| | | ②自分も友達も大切に、共に生きる人権教育を全領域で推進 | 項目 児童一人一人の考えを尊重するとともに、児童がお互いの良さががんばりを認め合える授業を実践しているか。 指標 自分や友達の良いところに目を向け、互いに認め合ったり励まし合ったりしながら学習に取り組むことができる。 | アンケート・授業参観 | | | | | |
| | | ③合理的配慮のある特別支援教育の深化・充実 | 項目 合理的配慮の合意形成を行い、個に応じた支援を行うことができているか。 指標 全ての児童が、学習する楽しさを味わったり、自己の成長を感じたりすることができる。 | アンケート | | | | | |
| 3 | 健やかな体の育成 | ①体力・運動能力の向上を図る | 項目 業間運動や一輪車運動・外遊び等を通して、体力・運動能力の向上を図っているか。 指標 外で元気に遊んだり、できる運動や技を増やそうと積極的に運動に取り組んだりしている。 | アンケート・児童の様子 | A | <ul style="list-style-type: none"> ・業間や休休みに外で遊ぶよう声かけを行う。また、楽しく遊べるよう、場の設定を行ったり、児童主催の全校遊びを行ったりする。 ・体育の時間をはじめにサーキットトレーニングを行う等、年間を通しての継続的な体力作りを行う。 ・持久走記録会では、昨年の自分の記録をこえることを目標にすることで、意欲的に取り組めるようにする。 ・防災やSNS使用の講演会を開催するなど、保護者とともに学ぶ機会を設定する。 ・避難訓練を工夫して行ったり、水泳は安全面を確保しながら全校で行うと共に、着衣水泳や心肺蘇生法講習会(教職員、6年)を行ったりするなどして、自分の命を自分で守る力の向上を図る。 | ◎ 3.8 | ◎ 3.7 | <ul style="list-style-type: none"> ◎体の成長に合わせて運動能力のアップが図られるとよい。 ◎身体の仕組みや薬、栄養素(ビタミン、ミネラル等も含め)等の医学知識、食事と身体の関係(食育)等を学習することも必要 ◎食育は、保護者も含め、大切な体力づくりの基礎知識。心身ともに健康に生活するには運動による体力づくりに加え、食事についての学習も必要だと思う。(医食同源) ◎SNSの使い方は、「ネットへの投稿は、世界中に広がり、消すことが出来ない」、「他人を誹謗中傷してはならない」等、保護者に対しても、周知が必要 ◎日常的に体を動かす機会を増やし、運動の楽しさを実感させる取組が必要 ●生活様式の変化で、運動習慣・体力面に大きな差がある。 |
| | | ②健康教育の推進 | 項目 「早寝・早起き・朝ごはん」の推進や給食指導・保健指導等の充実により、健康への意識や態度を高めているか。 指標 「早寝・早起き・朝ごはん」を意識し、生活リズム・栄養バランス等を整えている。 | アンケート・児童の様子 | | | | | |
| | | ③安全教育の推進 | 項目 防災について意識や能力を高め、緊急時に適切に対応できるよう計画的に防災教育を実施しているか。 指標 地震や火事、津波などの災害時にどのように行動すればよいか知り、行動できる。 | アンケート・児童の様子 | | | | | |

| | | | | | | | | | |
|---|-----------|----------------------------------|---|-----------------|---|--|----------|----------|---|
| 4 | 主体的な態度の育成 | ①豊かな体験活動の充実 | 項目 学校が、地域の拠点としての役割を担うことができているか。 指標 地域の良さや、地域の方々に支えられていると感じることができている。 | アンケート | A | <ul style="list-style-type: none"> 校外学習等で、実際に見たり体験したりする機会をできるだけ多く設定する。 地域の方をゲストティーチャーとして招いて学習したり、地域についての調べ学習を行ったりすることで、地域を愛する心情を高める。 キャリアノートを活用し、目標をもって行事に取り組んだり、振り返りを行ったりすることで、自己の成長を感じられるようにする。また、大きな行事には、みんなでひとつの目標に向かって取り組めるようにする。 | ◎ 3.8 | ◎ 3.8 | <ul style="list-style-type: none"> 既に、地域に根差したコミュニティスクールとしての原小学校になっています。いつまでも、継続出来るよう希望します。 校外学習の準備や引率は、先生方の負担が大きいと思うが、子ども達には、有年の歴史、文化、地域の伝承行事、地域の特性等を知ってほしい。 「地域(有年orありなし)の日」として、地域の人材を講師とした地域学習や地域へ出かける日等を設けるのであれば、手伝える人材はある。 地域の様々な行事に参加することで、視野を広げる体験ができるとよい。 児童が自ら考え行動する力を伸ばす必要がある。 学校行事等で、児童が主体的に意見を出しながら活動できる環境づくりを行う。 地元へ愛着をもつことは重要なこと。来年度もどんどん地域について学習してほしい。 有年中校区全体を校外学習の範囲とし、有年小児童との協働学習も考えてはどうか。 |
| | | ②グローバル化に対応した教育の充実 | 項目 郷土を愛する心を育てられるように、地域教材を生かした学習単元を設定し実践しているか。 指標 地域への愛着や誇りをもつことができている。 | アンケート | | | | | |
| | | ③各学年の発達段階に応じ、自分の生き方を考えるキャリア教育の推進 | 項目 自分の将来や仕事について考えるキャリア教育に取り組む、自立心を高めているか。 指標 自分の将来の姿を考えたり、働くことに対する関心を高めたりすることができている。 | アンケート | | | | | |
| 5 | 家庭・地域との連携 | ①家庭・地域・専門機関と連携した開発的生徒指導の推進 | 項目 あいさつや日常的な声かけなどを通して、児童と信頼関係を築けているか。また組織的な生徒指導体制を整え、規範意識の醸成・他者を思いやる心の育成に努めることができているか。 指標 安全に気をつけ、明るく元気に学校生活を送り、自らあいさつすることができる。 | アンケート・児童観察 | A | <ul style="list-style-type: none"> 生活指導では、あいさつについて、適宜、全体指導や個別の声かけを行い、校内でも校外でも、自分から、笑顔であいさつできるよう、粘り強く働きかけていく。 保護者に向けて、学級便り(紙面)、本読み表、タブレット等を使って、学校の様子を知らせていく。 学校だより「原っ子だより」の配付や学校ホームページを通して、地域に向けて、学校教育活動への理解を図る。 オープンスクールや授業参観を適切に開催し、児童の様子を直に見ていただく場を設定する。 原幼稚園・有年中学校等と情報交換を適切に行っていく。 | ◎ 3.8 | ◎ 3.7 | <ul style="list-style-type: none"> 「原はら土器ドキフェスティバル」は、原幼稚園や有年中学校、地域と連携した行事で、地域ぐるみでの子育てや人育てにつながる。コミュニティスクールとしての代表的な行事になるのではないと思う。 「オープンスクール」や「昔遊び」、地域学習等、地域住民が参加できる行事の継続をお願いしたい。 挨拶は人間としての基本。大きな声でしっかりと挨拶できる人間を育成してほしい。 挨拶と同じように「返事」はコミュニケーションの根幹であるので、身につくようにしてもらいたい。 学校・家庭・地域が連携して、子どもを育てていく体制が重要 情報発信を積極的に行い、学校・家庭・地域の3者が連携できる取組が必要 幼・小・中の連携を更に強めて、情報交換、意思疎通の強化をお願いしたい。 |
| | | ②保幼小中との連携 | 項目 相互の発達段階を考慮した活動を行い、児童に自分の在り方について考える機会を設けているか。 指標 今の自分の姿を見つめたり、将来の自分の姿を考えたりすることができる。 | アンケート・児童観察 | | | | | |
| | | ③学校の取組の発信と学校評価 | 項目 学校は地域や保護者に学校教育方針や児童の活動の様子をわかりやすく伝えているか。また、学校に対する評価や要望に真摯に対応しているか。 指標 保護者や地域の方が、学校は学校だよりやHP、オープンスクールなどで、学校の様子をわかりやすく伝えていると感じている。 | アンケート | | | | | |
| 6 | 学校運営 | ①人権を大切に作る学校づくり | 項目 人権尊重の視点に立った環境づくりに努め、学校長を中心に、組織的に学校運営がなされているか。 指標 自他を尊重し、よりよく生きようとする児童の育成に向けて、職員が協働的に教育活動に取り組んでいる。 | アンケート・学校評価資料 | A | <ul style="list-style-type: none"> 毎月の生活アンケートを確実に実施し、担任と児童一人一人が話をする機会を設けることで、いじめや問題行動等の未然防止、早期発見、早期対応等を図る。またアンケート結果を全職員で情報共有することで、チーム学校としていじめの防止に努める。 スクールサポートスタッフの有効な活用やICT支援員との連携・ICT機器の適切な使用を通して、教職員の業務軽減を図り、児童に向き合う時間や授業準備等の時間を確保する。 行事の精選や内容の協議、準備や片付けの効率化を図ると共に、実施後の振り返りを確実にを行う。 | ◎ 3.8 | ◎ 3.7 | <ul style="list-style-type: none"> 今後の「地域とともに歩む学校づくり」として、「地域学習の日」等を企画し、その際は、講師を地域人材に任せることで、先生方の負担を少しでも減らせたらと思う。 先生方の負担を減らせるように、地域やPTAに協力を要請してもよいのではないと思う。(運動会の道具の出し入れ等)PTA活動は、親の子育ての学習の場でもあるため 学校運営委員として、先生方の顔も名前もわからないということのないように、出来るだけ、オープンスクールなどの行事に参加していきたい。 児童一人一人の特性を把握しておくことで、いじめの未然防止、早期発見、早期対応につなげる。 地域の方が参加しやすい行事運営を行う。 保護者・地域の協力を得ながら、地域に開かれた学校づくりを継続していく。 ●教職員数が少ないために、教職員の役割が多岐に渡っており、負担増となっているのでは。 |
| | | ②家庭・地域と共に歩む学校づくり | 項目 開かれた学校づくりに努め、地域と共に歩んで行こうとする姿勢が見られるか。 指標 学校評価等を有効に活用するなど、積極的に地域の声を取り入れている。 | アンケート・学校評価資料 | | | | | |
| | | ③学校の組織力の向上 | 項目 学校教育目標の具現化に向け、課題と成果の共有化を図っているか。 指標 教師一人一人のモチベーションを生かし、児童の活躍の場を大切にしたい取り組みが行われている。 | アンケート・職員会議提案資料 | | | | | |
| | | ④学校業務改善の推進 | 項目 校務の効率化を図り、勤務時間の適正化に努めているか。 指標 PDCAサイクルによる業務の見直しや改善を行い、超過勤務の縮減に努めている。 | 記録簿 | | | | | |
| | | ⑤教職員の資質向上 | 項目 他人の意見に耳を傾け、使命感と熱意をもち、指導力・授業力を高めようと努めているか。 指標 児童や保護者・同僚の意見に耳を傾け、自省しながら日々の教育活動の充実にむけた取り組みが行われている。 | アンケート・研究授業・校内研修 | | | | | |

自己評価における特記事項

・校外学習等の体験的学習の実施や児童一人一人が活躍する行事の開催等、小規模校のよさを生かした教育活動を展開することができた。保護者や地域の方々の本校教育活動への理解と強力な支援は、大きな強みであり、来年度についても、その強みを最大限に生かして、原小学校ならではの特色のある教育活動を進めていく。

項目以外の点での来年度の課題や具体的改善方法等

○有年地区は、ここ10年程で、急速に少子高齢化が進み、人口が減少している。数年内には、高齢者の比率が増加し、老々介護的な地域になっていくことが予想される。

○原小学校を巣立った子ども達が、地域に残っても、地域外へ出て行っても、都会でも、地方でも、自分に自信をもって、社会生活を送れる人になって欲しい。そのためにも「他人に優しく、自分に強い子」、そして、「地域に、愛着と誇りをもつ子」に育ててほしい。出来れば、地域に残り、地域を守っていく人になってほしい。

○学校・地域・家庭・子どもが一体となって、少しでもよい教育活動ができるよう、委員一人一人が今、自分ができることをやってみようとするのが大切である。

○教職員も少人数で大変だと思うが、現状が維持できるよう今後もがんばってほしい。

○小学校での体験が子どもたちの一生を左右する。見る物、聞く事、触る物、初めての体験全てが宝物になる。そんな子どもたちの成長を多くの先生方で見守っていただけのことではない。

○原小校区は場所的に有利な土地柄である。たつの市南山のように、数年後には、住宅が建ち並び、道路も充実しているかもしれない。

○子ども達は地域の宝、学校は地域の財産と考えている。

●小規模校の弱点を克服する工夫をお願いしたい。(道徳科における異学年での意見交流、大きな集団との活動体験等)

●「ありなし文集」が手書きでなくなり残念。手書きでいろいろな字があるのが個性だと思う。

※3月27日(金)までに学校までご持参いただくか、FAXをしていただくと幸いです。